



「工学」それは意思を実現する体系

広報室から

名誉教授津田公一先生を悼む



名誉教授津田公一先生は平成17年8月21日午前0時30分、肺炎のため逝去されました。享年83歳でした。通夜、葬儀・告別式は都下・町屋斎場にて執り行われ、先生を偲んで多数の方が参列されました。

津田先生は大正10年8月29日満州(現在の中国東北部)大連市にお生まれになりました。ご両親とも神道を熱心に信仰され、先生の気高い世界観はこのような家庭環境の下で育まれました。東京高等学校高等科理科乙類、東京帝国大学第一工学部と進まれ、航空学科航空原動機専修を昭和18年9月に短縮卒業されました。卒業後直ちに東京帝国大学第一工学部講師、陸軍航技中尉として陸軍燃料廠に勤務された後、昭和24年5月東京帝国大学助教授に任ぜられ、昭和32年11月工学博士の学位を授与されました。

昭和37年6月東京大学教授に昇任、昭和57年4月に停年により退官されるまで、機械力学ならびに船用内燃機関の講座を担当され、機械力学、特に内燃機関の力学分野において、卓越した独創力と柔軟な思考力を持って多くの研究業績をあげると共に、崇高な理念に従って学生の教育指導に献身し、学会および産業界に多くのすぐれた人材を育てあげられました。この間昭和39年に文部省在外研究員としてカールスルーエ工科大学に長期海外出張され、機械要素学の権威であったコルマン教授の影響を受けられました。また、在任中は多くの重責を勤めて大学の管理運営に携わり、その発展のために貢献されました。

ご退官の後、横浜国立大学教授に迎えられ、同工学部における機械力学講座の初代教授としてその基礎を築かれました。その後工学院大学教授として招かれ、平成元年まで同学の研究・教育に貢献されました。これらの在任中に、日本船用機関学会会長を務められるなど関連学協会の運営と振興にも力を注がれました。また一方では、文部省の研究行政、通商産業省の産業技術行政、運輸省の運輸技術行政、環境庁(現環境省)の環境技術行政、自動車ならびに船舶の高速化・高効率化・高信頼化および低公害化のための技術開発など、多くのプロジェクトの企画実施に先生は終始先導的立場から、産、官、学界に指導的役割を果たされました。

先生は、特に内燃機関および関連系の力学的分野における独創的研究で、世界的に高い評価を得ました。すなわち、往復式内燃機関におけるクラン

ク軸の連成振動に基礎理論とその応用、同じく動弁系力学の基礎理論とその応用、ピストンスラップの力学、がたのある駆動系の振動問題、浮動ブッシュ軸受の挙動、などの先生の研究成果が、今日の世界中のあらゆる陸用、船用内燃機関の高速化、高効率化、高信頼化、低振動・騒音化をもたらしたと言っても過言ではありません。

先生はこれらの業績によって、昭和54年東京都科学技術功労賞、平成9年勲三等旭日中授章などの表彰を受けられました。わが国の科学技術の信頼性と国際競争、科学技術の社会への貢献などがますます重要になってきている今日、荒海上の船の羅針盤の如く、高所から我々が進むべき方向を指し示される先生を失うことは、わが国にとって大きな損失であります。津田公一先生のご逝去は誠に痛惜の念に耐えません。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。終わりに、8月21日付で正四位に叙せられた事を申し添えます。

酒井 宏(東京大学工学部 名誉教授)

[ページの先頭へ](#)

[前ページへ](#)